

# 二葉

## 東京支部だより

第 5 号

平成 9 年 4 月 1 日発行  
諏訪二葉高等学校同窓会  
東京支部編集委員会

題字 今井綾子 (高女28回)



### 伝統の中に新しい風を

支部長 松村田鶴 (高校5回)

陽春の候、会員の皆様には  
いかがお過ごしでしょうか。  
多くの皆様のご協力により  
ここに「東京支部だより」第  
五号をお届け出来ますことを  
深く感謝致します。

戦後、東京支部が再結成さ  
れて四十数年、先輩諸姉が育  
んで来られた伝統、心の絆は  
多くの後輩に受け継がれ、支  
えられて、四二〇〇人の会員  
を擁するまでになりました。

### 東京支部と私

前支部長 林 芳子(高校4回)

五月の総会が終り、ほっと  
一息と思えますうちに平成八  
年も暮れようとしております。  
会員の皆様にはお変わりなくお  
過ごしでしょうか。

卒業後四十五年経ちますが、  
この五年の間に私と東京支部  
とのつながりが急速に深まり  
自分でも驚いています。と申  
しますのは、五年前に会計、  
二年前に副支部長、昨年度は  
支部長のお役を務めさせて頂

この間、時代のニーズに合わ  
せ、役員の任期や選出方法等  
会の形も少しずつ変わって参  
りました。

また、近年は仕事を持たれ  
る方も増え、特に若い世代で  
は幹事の選出が困難な学年も  
出て来ました。男子会員も増  
える将来は幹事会、総会等の  
日程の見直しも考えられます。  
同窓会は、仕事を離れ、世  
代を超えた交流の場です。忙

きました。それまでは、二十  
年以上前に、高女十八回卒の  
伯母に誘われて総会に出席し  
た遠い記憶と、学年幹事の折  
の連絡役ぐらいで支部の存在  
を意識したことはまずなかつ  
たのです。二年に一回支部だ  
よりが出され始めてから、だ  
いぶ身近になったとはいえ、  
多くの会員の方も同様な気持  
でおられると思います。しか  
し、この五年間を顧みますと、

しい日常にあって忘れられが  
ちですが、「支部だより」、  
総会等を通して、その層の厚  
さ、心の絆を感じて頂き、同  
窓会への関心を深めて頂けた  
らと思います。

母校での理事会への道すが  
ら行き会う二葉の男生徒、女  
生徒。思い思いの服装で楽し  
げに語らいながら坂道を下っ  
て来る姿に新しい時代の二葉  
を感じ、力強く思いました。  
伝統の中に新しい時代の風  
を取り入れながら、幅広い世  
代に支えられ、二十一世紀に  
向かって東京支部がますます  
発展して行きますようお願い  
しております。

自分が如何に貴重な体験をし  
たかに気付かされ、感謝の気  
持が湧いて参ります。例えば、  
二葉ヶ丘で学んだという一本  
の糸によって多くの方々と結  
ばれ、その出会いを通して触  
れ得た素晴らしい生き方や考  
え方、支部創立以来多くの先  
輩や先生方のご努力に守られ  
てきた、太い静かな流れの存  
在を感じたことなど、数えた  
らきりがありません。  
会員の皆様も何かで支部と  
係わり、大切なものを共有し  
て頂けたらと願っています。

### 平成9年東京支部総会のお知らせ

日時	平成9年5月30日(金)
	10:30~15:00
会場	日本青年館 4F 東洋軒
	TEL 03-3475-2525
講演	講師 明珍昭次先生
	(東日本国際大学教授・哲学者)
演題	「人間として生きる」
7トクツクン	日本歌曲 秋山ミチ子 (高校11)
昼食費	パーティー 5,000円

### 本部理事会報告 (平成8年度)

平成8年4月	会報「ふたば」24号発行
"	入学式 新入生へ校章贈呈
5月	第62回同窓会定期総会 5月18日 於シティホテル成田屋
7月	生徒会二葉祭へ祝い金贈呈
10月	親睦バス旅行 伊那谷めぐり 112名参加
11月	校内講演会(学校・同窓会・PTA共催)「安土桃山文化の国際性」
平成9年3月	卒業式 卒業生へ記念品贈呈(テレフォンカード)

- ・ 県道霧ヶ峰線拡幅改良工事完成
- ・ 校舎改築計画(8年度基本設計→13年度校舎完成・14年度付帯工事完成)
- ・ 創立90周年記念行事に協力の予定(平成9年度)



## 東京支部のみなさまへ

諏訪二葉同窓会会長  
原田秀子(高校2回)

私たちの母校はことし創立九十周年を迎えます。この輝

やかな節目は、二葉ヶ丘から巣立った多くの卒業生にとつて改めて喜びと誇りの感慨新たなものがあることと存じます。

この度、母校の伝統と精神は守り伝えられて九十周年を無事に迎えることになりましたが、近年はかつてない程の速さ激しさをもって世の中の

情勢が様々な変化している

にありま。例えば、先頃出生率が明治三十二年以来の最低を記録しました。少ない子供により教育を充分にという願望も大きな理由の一つでありましよう。この様な現状を前に母校の将来を惟みる時、

県立だから、伝統ある名門校だったからというだけで過去九十年と同じ道が歩めるとは

## 東京支部だよりに寄せて

七色の花が咲き競い新緑が瑞々しい季節に盛大に開催されました東京支部総会にお招きいただき、同窓生各位の格調と品位の高いお姿に深く感銘を致しました。私、坂本前校長のご退職にともないまして、後任として、

生徒一人一人の良さを発見

### 本部定期総会のご案内

日時 平成九年五月十日(土) 九時より  
会場 シティホテル成田屋(TEL 〇二六六・五一・四五〇〇)  
申し込みは母校事務局へ

(TEL 〇二六六・五一・四六二八)

に到底思えせん。「世界をリードする人材の養成」とか「マルチメディア利用の学習」など言われております。よい生徒を吸収し、アクティブに社会に貢献する卒業生を送り出せるような二葉高校にいたさねばなりません。そして、これからは在校生も卒業生も思

いをひとつにして、二葉高校のよりよい存続に努めることが必要と思われま。規制緩和が進み自由競争の波は学校にも及ぶ時代です。二葉高校にかかわりある者みんなで力を合わせ、次なる百周年に向わねばならないのではないでしょう。みなさま、どうぞお健やかに。

てお世話になっておりますが、同窓会の皆様には本校に対する献身的なご支援に心から御礼を申し上げます。さて、二葉高校は二八三名の新入生を迎え、総勢九三二名のお子さん達をお預かりしており、女子約六三%という比率で、共学十年目となりました。「春の朝、坂より空へ女学生」という函館の方が詠んだ句の情景がピッタリな大根坂の朝の風景です。

し、それを伸ばし自己実現の手助けをして、それぞれの希望や願いを達成できるように最善を尽しております。本校の長い伝統の中で培われてまいりました品位と努力と感謝の気持ちを大切にしながら、何よりものちと人権が大事にされる学校として、同窓会はじめ地域社会の皆様の熱き期待に添えるよう精一杯智恵を出し、汗を流して参りたいと考えております。尚、本年の課題と致しまして、

### ☆☆ 平成6・7年度卒業生の動向 ☆☆

1) 最近の進路状況 ( ) は男子

卒業年度	卒業生 総数	進		職		(浪人・家居)	
		人員	比率	人員	比率	人員	比率
平成6年度	357(107)	257(53)	72%	7(4)	2%	93(50)	26%
平成7年度	357(124)	275(72)	77%	3(1)	1%	79(51)	22%

2) 最近の学校別進学状況

卒業年度	国立大	公立大	私立大	国公短	私立短	専門	その他	計
平成6年度	13	4	73	28	98	41	0	257
平成7年度	28	3	98	14	73	59	0	275

# 恩師だより

## 回想

保坂 泰正



諏訪高  
等女学校  
同二葉高  
等学校御  
出身の皆  
さん 日  
本の中心

都市で夫々の途にご活躍の事と恐察先ず以てお喜びを申し上げます。

さてこの度は幹事の方から思ひ出をとの御申し越し、それにしても間もなく八十四歳神経痛、難聴、白内障、惚けと諸々の傷害が集中的に襲来し話す事も書く事も覚える事もすつかり衰弱して困っている昨今ですが、ご要望にお応えしなければと思ひ筆をとった次第です。回顧すれば小生が二葉高校に勤めさせて頂いた歳月は五十年の教員生活中で最長の十九年でした。山梨県の小学校に六年、静岡県の高等女学校に六年、ここで終戦。長野県へ。上諏訪中学二年を経て二葉高校へ。松本からの強引な要請により後髪を引かれながら汽車通勤で六年。この間早く二葉へ帰

りたいと願う日々の連続でしたが願ひ適って二度目の二葉高へ。それ以後定年退職迄永き哉十六年。結局前後を合算すれば十九年。併しこの長い二葉生活を反省してみると音楽指導にしても生活指導にしても、なせもつと良い指導が出来なかつたのかと自責の念が脳裏をかすめる時がしばしばあります。

さてこの長い二葉生活の中から印象深かつた二三の件について述べさせて頂くと思ひますが前述のような障害者のこと故間違ひがあつたらご修正の程をお願い申し上げます。

先ず音楽関係、毎年秋行われ校内合唱コンクールでは各クラス夫々よくまとめたものと感心。早い組は二期期初頭から練習にとりかかるといふ熱の入れよう。審査の結果優秀組の発表。賞状と何か賞品もあつた事と思うが音楽を選択してない生徒の為に特に意義ある行事だと思ひ末長く続けられる事を願つた次第でした。

蓼科高原までの全校遠足。霧ヶ峯を越え蓼科へ。此所で数軒の宿に分れて一泊し、翌

朝自由解散という計画。女生徒達にとつては一寸無理ではないかと思つたが実施してみても全く杞憂で生徒等強い強い！次はストーブ用燃料の準備作業。初夏の頃か学校林へ登つて落葉松の間抜きと学校迄の引き着け作業。昼食鋸鉋等携行での荒作業。怪我もなく大成功おかげで冬も暖かく過ごせた事を思い出す次第です。

最後に本館裏中庭の片隅で青紫の美しい花を楽しませてくれたあのシラネアオイは今も元気で咲き続けていますかネ！では皆さんどうぞ、ご健健で。拙文誠に失礼。保坂泰正先生 プロフィール 二葉高校に音楽専科として通算19年間。その後、短大教授を10年間で退官。84歳の今諏訪盆地を見晴らす丘で奥様に静かに御生活。

## 南海に散った M兄を思う

小松 一弘



M兄は、私より二

つ年上の先輩であつた。親戚でも

あつたので旧制中学に入学してからも、いろいろ面倒を見てもらつていた。M兄は途中、土浦の「予科練」(海軍飛行予科練習生)に入隊した。昭和十九年夏、「七ツボタン」の制服で訪ねてくれた。その凛々しい姿に私はあこがれた。自分も「予科練に志願したい」と言つた私に、

「いや、一弘さんは先生になる今の在籍している学校を、ぜ

ひ続けてほしい。予科練には来ないように」と、はつきり答えてくれた。

私は、挙手して帰つて行つた予科練姿のM兄の後姿を、いつまでも見送つていた。

東京の学校に進学した私は、教員の道を選んだ。昭和二十年の東京大空襲で寮から焼け出され、山梨県の農家への勤

勞奉仕、日光の軍需工場への学徒動員などの学生生活であつた。食糧難で、東京の雑炊食堂の前に一列に並んで空腹をしのいだり、時には早朝、神田の岩波書店の前に並んで一冊の文庫本を求め、心の糧にした。

帰省して上京の時は、寮にいる学友への土産は、リュックにつめた、祖母や母のつくつた「おにぎり」や自家製

の「凍りもち」であつた。

終戦の数月前、「二月十六日、M兄、本州南方海上にて戦死」との知らせが、わが家から届いた。思えば、M兄が自分に会いに来てくれたあの時は、出勤前の最後の別れであつたのだ。

あの時からすでに五十年の歳月が経過した。

その間、私は毎年、丘の上にあるM兄の墓参りをしている。その丘は二人の母校の校庭の上にある。ちょうど、あの頃の自分たちと同じ年代の若者たちが、元気にサッカーや野球をしている。かつてはわれわれが軍事教練を受けた校庭でもある。

私は墓参りの時、その丘上に立つて、ひとり母校の校歌を歌っている。

「嗚呼 博浪の槌とりて打破せん腐鼠の奴はらば 弥生半ばのこの夢を……」。

南海に眠りしわが友安かれと 丘に登りて若き日を歌う

小松一弘先生のプロフィール 諏訪出身。23年新卒で二葉高9年。理科担任であだ名はモルさん。行政を経て屋代南高校長で退職。現在お寺の総代。水彩、尺八、無線楽しむ。

# 総会報告

— 平成6年度 —

副支部長  
山田淳子 (高校4回)

平成六年度諏訪二葉高等学校同窓会東京支部定期総会は、平成七年五月二十三日 日 火曜

日 午前十時三十五分から午後三時十分迄、日本青年会館内、東洋軒に於いて、下記の如く開催されました。参加者は、二四四名(来賓三名、客員一名、役員九名を含む)当日は、さわやかな五月晴れに恵まれ和やかな一日でした。

- 司会 副支部長 林 芳子 (高4)
- 一、開会の辞 副支部長 古俣松子 (高3)
- 二、校歌斉唱 ピアノ伴奏 山田淳子 (高4)
- 三、支部長挨拶 井上玲子 (高3)
- 会報(東京支部だより)発行  
○男子同窓生の初加入  
○若い世代の参加を期待する
- 四、来賓、客員紹介 井上玲子 (高3)
- 五、議事 議長選出

- 議長 朝長孝子 (高3)
1. 事業報告 古俣松子 (高3)
2. 会計報告 小平ミキ子 (高7)
3. 会計監査報告 金子秀子 (高6)
4. 新年度役員承認 井上玲子 (高3)
- 議長解任
- 六、来賓祝辞 母校校長 坂本明由先生 本部同窓会会長 小口玲子氏
- 七、客員挨拶 三井爲友先生 手紙紹介 (欠席された先生) 竹村静子先生(坂東) 埋橋朝賢先生 祝電 長野県同窓連会長 飯田風越高校同窓会 東京支部長 井上玲子 (高3)
- 八、新年度役員紹介 井上玲子 (高3)
- 九、新支部長挨拶 林 芳子 (高4) 昼食 歓談 乾杯の音頭 武井前支部長 (高2)
- 十、講演 山崎一穎先生

「森鷗外の作家誕生迄」 (5頁に記載)

休憩 お茶の時間 シャンソン

- 十一、余興 三沢章子 (高13)
- 十二、白き翼 斉唱 伴奏 山田淳子 (高4)
- 十三、花束贈呈 高女24回の方々へ 十三名
- 井上玲子 (高3) 古俣松子 (高3)

- 十四、閉会の辞 副支部長 山田淳子 (高4)

## 図書紹介

- ①宮崎玲子著 (高3回) 『台所から見た世界の住い』 彰国社出版 一九九六年 二六二七円
- ②歌集 高槻文子著(高6回) 『虹ありぬべし』 不識書院 一九九二年 一八六頁 二五〇〇円
- ③評論 青木朋江著(高6回) 『学校において 女性管理職はいかに経営するか』 東洋館出版 一九九六年 一八九頁 二四〇〇円

## 平成6年度決算報告書

諏訪二葉高校同窓会東京支部

(平成6年5月1日~平成7年4月30日)

収入の部				支出の部			
項	目	金額	備考	項	目	金額	備考
1	前年度繰越金	2,081,596		1	総会 東洋軒会食代	1,058,800	
2	維持費	1,326,725		1	東洋軒会場費	207,770	
	現金	(581,000)	寄付 4,000円含		講師謝礼	110,000	
	振り込み分	(745,725)	寄付20,000円		雑費	81,834	
3	総会当日会費	1,110,000		2	印刷費	184,060	会報、案内
4	総会関係雑収入	35,000	(客員ご祝儀、寄付金)	2	通信費	313,000	封筒、切手
5	還元金	65,000		2	雑費	21,723	名簿訂正、コピー
	会報発行祝金	50,000		3	弔意金	6,785	
6	預金利息	16,858		4	名簿基金	200,000	(積立基金現在1,100,000)
7	その他雑収入	824		5	役員通信費	37,000	
				6	役員交通費	113,740	
				7	役員会、幹事会	340,076	
				8	通信費	27,550	
				9	印刷及びコピー代	15,800	
				10	事務用品費	12,482	
				11	同窓連会費	5,000	
				12	雑費	79,132	
					次年度繰越	1,871,251	
合	計	4,686,003		合	計	4,686,003	

上記の通りご報告致します

上記は会計監査の結果間違いありません

平成6年度会計

平成7年4月30日  
伊東順子 ㊟  
小平ミキ子 ㊟

平成6年度会計監査

平成7年4月30日  
金子秀子 ㊟  
矢崎福美子 ㊟

# 森鷗外の作家誕生まで

山崎 一穎先生  
やまざき かずひで

《津和野、森家の論理》

森鷗外（本名林太郎）は、文久二年（一八六二）一月島根県の津和野町で森静男、峰子の長男として生まれました。父は殿様付きの医者でありました。鷗外は「此家庭では父が情を代表し、母が理を代表し、父が子供をあまやかし、母がそれを戒めると云ふ工合であった」と語っています。取子取嫁であった祖父父母、その一人娘であった峰子、その峰子と取婿静男との間に森家を継ぐ長男として鷗外は生まれたわけで、森家の期待を一身に背負って生きなければならぬ宿命を持っていました。

しかも、森家は百石、三百坪の家から、鷗外が生まれた時は五十石、二百坪の家へ移っています。微緑な士族であったわけですが、鷗外は「博士の祖父から博士の母を通じて、一種の気位の高い、冷眼に世間を視る風と、平素実力を養って置いて、折りもあつたら立身出世をしよう」と云ふ

志とが伝はってゐた」と語つてもいます。この気位の高い家風と立志の心構えが、森家を支えて来た論理と言えましょう。

藩校での鷗外の「四書」の復習のため、文字を知らなかつた母はまず自ら学び、仮名付きの「四書」を読み、鷗外の学習を見ています。父はオランダ語の手ほどきをしています。長男のために、奮闘的生活をしています。

心と腕とを財産にして、津和野という山間の地、冬は雪に降り込められる盆地から、名を挙げ、家を興すことをめざして、明治五年（一八七二）十歳の時、上京をします。

親戚の西周、この人は明治啓蒙期の哲学者です。この西周の所に寄宿し、進文学社でドイツ語を学び、東京大学医学部を明治十年（一八七七）卒業します。一九歳六月月という一番若い学士です。これは大学に入る時、学齢に達しないので、履歴書の上で出生

を二歳早めたためです。

## 《国家の論理》

明治政府は日本の近代化を進めるために、欧米から技術と人を導入してきました。いわゆるお雇い外国人といわれる人達です。政府は西南戦争（一八七七）後、自前の指導者を育成するために、明治十二年（一八七九）から東京大学の卒業生のうち成績の一、二番の者を国費留学生として西欧へ派遣します。

一方、国家の政策の立案者としての官僚機構の整備に取り掛ります。これが明治二十年（一八八七）公布の「官吏服務紀律」となります。

## 《鷗外のドイツ留学》

鷗外は留学を夢みていたのですが、卒業試験の時、火事でノート類を焼いたり、軽い肋膜炎を患ったりで卒業成績は八番でした。森家では鷗外の希望と関わりなく、十四年九月には西周の斡旋で、陸軍省入りが内定しています。鷗外は留学の道を探り、結局諦めて十二月陸軍省へ出仕します。

明治十七年（一八八四）陸軍省からドイツ留学を命ぜられます。留学目的変更等がありますが、国家の論理に添って生きることになります。ペ

ルリン、ライプツヒ、ドレスデン、ミュンヘン、ベルリンと、明治二十一年（一八八八）九月帰国するまで、医学、文学、演劇等鷗外の視野は広がっていきます。

鷗外はE・ナウマン（ナウマン象の命名者）と論争します。ナウマンは日本の西洋模倣を批難します。鷗外は西洋から学ぶものとして、「自由と美」の精神であると反論します。科学者鷗外が物質文明でなく、精神文明を高く評価している点は注目すべきです。

## 《帰国後の活動》

帰国後すぐドイツ女性エリーゼヴィゲルトが、鷗外を追って来日します。一ヶ月程滞在しますが、森家の説得で帰国します。森家は鷗外の結婚を急ぎます。西周と幕末オランダ留学した男爵海軍中尉赤松則良の長女登志子と結婚します。鷗外は断念して関与しませんが、この反動が医学論争になって現われます。

鷗外は第一回医学会総会をめぐって、学問の研鑽の場を主張し、親睦を優先する陸軍省の上層部や恩師と激しく対立します。「東京医事新誌」の主筆の座を追われると、「医事新論」を創刊して聞きます

が、敗北していきます。一方、ドーデを始めとして翻訳小説、戯曲を発表します。テーマは異境にある男女の「愛と別離」の物語です。明治二十三年（一八九〇）創刊『舞姫』と同時に発表した翻訳『ふた夜』ではヒロインに「愛なくして結びし縁ほど悲しきものはなし」と言わせています。

## 《林太郎から鷗外へ》

帰国後の因襲に満ちた祖国で、西欧体験の自由と美の精神は揺さぶられ、挫折していきます。このような状況と自己を客観化した時、創作『舞姫』は書かれます。ここに作家鷗外が誕生します。

『舞姫』は、公のために私を犠牲にしなければならぬこの国の知識人の悲劇と言えます。それにしても、自我の不在の歎きは大きいですね。

## 講師プロフィール

一九三八年長野県中野市にて出生。四五年高島小学校入学（担任牛山百代先生）。六年早稲田大学卒業。現在跡見学園女子大学教授、理事。日本近代文学会評議員。森鷗外記念会常任理事、御尊父新蔵先生は、私達の恩師です。

# 総会報告

— 平成7年度 —

副支部長  
宮沢澄子 (高校5回)

東京支部総会は、一年で一番美しい木々の緑も鮮やかな平成八年五月十四日(火)に日本青年館で、下記の通り開催されました。在りし日を懐かしみつつ母校の発展を願う同窓生高女二十二人回生五名の皆様始め高校二十七回生の方迄総勢二六三名という多勢の御出席で、本日から校長先生、正副会長、客員の方々をお迎えしての総会はいへん華やかでした。

- 一、開会の辞 副支部長 宮澤澄子(高5)
- 二、校歌斉唱 ピアノ伴奏 山田淳子(高4)
- 三、支部長挨拶 林芳子(高4)
- 四、来賓・客員紹介 支部長 林芳子(高4)
- 五、議事
  - 議長選出
  - 議長 原京子(高4)
  - 1 事業報告 副支部長 山田淳子(高4)
  - 2 会計報告 会計 小林郁子(高8)
  - 3 会計監査報告 前年度会計 小平ミキ子(高7)
  - 4 会計年度変更其れに伴う会則の変更 林芳子
  - 5 新役員承認 林芳子
- 六、来賓祝辞 母校校長 重田肇先生  
新入生283名 全校生徒数932名 男子生徒37% 教職員68名 品位、努力、感謝の気持ちを大切に生徒の成長を期待  
来年初立90周年を如何に迎えるか  
校舎の改築(平成8年着工)平成13年完成予定  
本部同窓会会長 小口玲子様  
東京支部総会への出席と二年間の任期を無事終了  
出来る事の謝辞
- 七、客員挨拶 三井爲友先生(昭和15年6月〜17年3月迄)  
戦争中小島に漂着し島の子等に「真白き富士の嶺」の歌を教えたりした懐かしき思い出あれこれ。  
久席の先生方からのお便りを紹介 林芳子
- 八、平成8年度役員紹介 林芳子
- 九、新支部長挨拶 松村田鶴  
—— 昼食― 歓談 乾杯の音頭 前支部長井上玲子(高3)  
—— 講演 小林和男氏(NHK解説主幹)  
「特派員の蔭に女ありし私の出会った人々」
- 十一、余興 ハーモニカ独奏 新井克輔氏
- 十二、花束贈呈 (高女25回生10名の方々へ)
- 十三、林・山田正副支部長へ高校4回生の方々から  
合唱 白き翼・今日の日はさようなら ピアノ伴奏山田淳子(高女)
- 十四、閉会の辞 記録 金子泰子(高13)

## 平成7年度決算報告書

諏訪二葉高校同窓会東京支部

(平成7年5月1日～平成8年3月31日)

収 入 の 部			支 出 の 部		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
1 前年度繰越金	1,871,251		1 総 会 東洋軒会食代	1,167,700	
2 維持費	1,193,932	現金705,000 振込488,932	東洋軒会場費	229,464	サービ料、卓上花代等含む
3 総会当日会費	1,210,000		講師謝礼	110,000	
4 総会関係雑収入	25,000		雑 費	70,591	
5 預 金 利 子	8,855		2 弔 意 金	2,090	
		維持費 振込には寄付 52,500円を含む	3 名 簿 基 金	200,000	(積立基金現在1,300,000)
			4 役 員 通 信 費	37,000	
			5 役 員 交 通 費	82,560	
			6 役 員 会、幹 事 会	240,531	
			7 通 信 費	69,430	
			8 印 刷 及 び コ ピ ー 代	21,253	
			9 事 務 用 品 費	12,999	
			10 同 窓 連 会 費	31,000	南信同窓連・県同窓連会 費及び総会参加費
			11 雑 費	61,973	
合 計	4,309,038		次 年 度 繰 越	1,972,447	
			合 計	4,309,038	

上記の通りご報告致します

上記は会計監査の結果間違いありません

平成7年度会計  
小林郁子 印  
奥村千江 印

平成7年度会計監査  
伊東順子 印  
小平ミキ子 印

# 特派員の陰に女あり

小林 和男先生



受験期の子供達は仕方無く日本に

テレビではお目に掛かっていると思いますが、小林和男でございます。二葉高校の同窓会というので楽しみにしてまいりました。と申しますのは昔憧れの二葉生に失恋し、死を考える程純情に思いつめました。しかし死ぬ気になれば何でも出来る、前向きに生きようと懸命に勉強しました。その後度も苦難に遇いましたが失恋の痛みに耐えた事を思い出しては、切り抜ける事が出来ました。ですから今ここに私が有るのも二葉生のお蔭と言えましょう。(笑い)

NHKに入り三十年の内半分は外国暮らし、子供も三人の内二人はウィーンで生まれました。一九八九年モスクワへ三回目の支局長を任命されました。子供達の目には父親が何か失敗をしたのでロシアへ行かされると映る程、モスクワは大変な所でした。受験期の子供達は仕方無く日本に

残し、妻には何としても行ってもらおう為に初めて頭を下げて頼みました。人が相手の仕事ですからいざという時には妻が、大きな役割を果してくれました。外国人との付き合いが厳しく制限されていた、ソビエトでは、身分が高くなかなか親しくなれない科学アカデミーの会員等とも妻の料理と心のこもったもてなしのお蔭で、信頼関係が生まれました。ロシア滞在中に妻の助けがいかに大きかったかは、外国人の妻としては誰も入った事の無いクレムリンに、妻が帰国の時に大統領首席補佐官から直々に招かれて、宮殿の中の案内とお茶のもてなしを受け、お土産に紋章入りのティーセットまで頂いた事を申し上げれば、分って頂けるかと思いません。この一九八九年ロシア行きは、私にはロシアに何かが起こる予感が有りました。テレビの仕事は集団の仕事です。スタッフが大勢居て画面に出る人はほんの僅かです。支局を整備し、まず

優秀なスタッフを集める事に取り掛りました。ロシア放送の有名なキャスターが、私自身テレビに出演してスタッフ募集を呼び掛けるチャンスを与えました。応募者が大変多く、これをクリアしたら働いてもらおうという問題を出しました。それは、「エリツィンがアメリカに行った時酒に酔って失態を演じた」と伝えたイタリアの新聞の記事を、ソビエト共産党のプラウダが、そのまま転載した事についてどう思うか、という質問でした。つまらない答ばかりする人達の中で、唯一「この記事は間違いだと思う、プラウダはワシントンに特派員が居り又、大使館も有る。他社の記事を確かめもせずそのまま載せる様な事はジャーナリズムの精神にも責任にも欠ける間違った行いです」と答えた女性が居りました。これこそ私が期待した答でした。

まだ大学院の学生でしたが、この人の他には無いと、科学アカデミーで働いて居る母親の所まで頼みに行き、週三日は大学に行かせる約束で、やっとNHKで働いてもらえらる事になりました。しかしこの約束は反故になる程彼女は私の片腕となって働いてくれました。一九九一年のクーデターの時外国の企業で働くロシア人は皆恐がって出勤しなくなりしました。過去の共産主義のスパイに対する恐い教えが有ったからです。しかしNHKで働いているロシア人は歩いて出勤して何昼夜も番組作りで働いてくれました。この時も妻は炊き出しや接待に寝ずに手伝ってくれました。私はその後、菊池寛賞を頂きましたが、モスクワ支局長として頂いた事を、大変嬉しく思います。賞金はスタッフの為に、使いたいと思い、ロシアスタッフに利益がいくよう計りました。

テレビを覗いていると画面の後ろで働く人の姿が自然と見えて来ます。ロシアでは政治面で表に出ているのは男ですが、陰で女性がしっかりと働いています。又労働力の半分以上を女性が支えています。

今ロシアを語る時何故あのエリツィンが大統領なのかという事が有ります。自由と民主主義を与えてくれた事を忘れて、アメリカだけが大国に成り、二流以下に成ってしまった自国という国民の意識が、ゴルバチョフを追いやりました。その上、聡明で目立つ存在のライサ夫人が妬まれ

た事も否めません。国有財産の分割民営化が泥沼と化し、治安が乱れて不安な統社会を生んでいます。しかしロシア社会は大変奥深いものです。例えば、体制に受け入れられずフランスに亡命してしまつたシャガールの絵を、国が多数買い込んでおり、シャガール誕生百年記念展覧会にはそれが出品され、驚かせました。若い頃三年間、東ヨーロッパをカバリーする移動特派員でした。ウィーンに居た時二人の子供がおりまして三人目は諦めかけた時、女医のグランデが励まし力付けてくれ、七ヶ月で生まれた超未熟児の三番目の子を立派に育てる事が出来ました。今振り返って見ますと失恋から今日まで、「特派員の陰に女あり」と感じます。テレビで又お会いしましょう。(文責瀬戸)

~~~~~  
講師プロフィール  
一九四〇年長野県茅野市生まれ。東京外語大ロシア語科卒業。モスクワ支局長、九五年NHK解説主幹となり、九六年よりNHKスペシャル「21世紀への奔流」のキャスターとして活躍。著書「ウィーンの東」「ヴォルガを下る」「東欧ジョーク集」他

# 白樺だより



## 未来の食空間に向けて 台所の歴史をひもとく

宮崎玲子 (高校1回)

応接間飾りの暖炉に自在鉤が！それが中世ヨーロッパの台所であったことに、目を疑う程強烈な印象でした。草屋根から出た煙突の下には自在鉤にかけた大鍋の湯がたぎり、悪い狼や魔法使いを上から落としてこらしめる童話もこの背景に納得したのです。

魅了しています。

一方食空間には地域性、民族性が残り、伝統を守りたい心が根強い部分でもあります。世界の人々の顔や言葉、或いは衣服や家の形が違いうように、食物の種類や調理法も、環境によって自然発生した習慣です。

地球を二分した北側に広がるヨーロッパは、冬の寒さと暗さを凌ぐための火を中心に暮らし、火の勢いを妨げないように、鍋を火から離して吊しました。火があるところが台所であり、伝統的な調理は、ゆっくり煮込みです。

南下するに従って火の器具は簡素化し、極端には三個の石でも間に合います。赤道付近では、概ね照明も暖房もいらないので、台所だから火を焚き、ままごとさえ石が三個で始まるのです。しかし高気温による腐敗をさけて、毎食毎に調理するため、油を使って強火短時間に仕上げる習慣が生じました。

北の国では洗うことは二の次で、現在も流しは小さ目であり、地方によっては、流しが無くても、調理暖房兼用のストーブは最新型が使われます。南では水の消費が多く、そのためヨーロッパの乙女の水汲みが歌になっても、南の国々では現在も過酷な労働です。

## 書と私

小林たかね (高校13回)

我が国の冬は低温ですが南に属し、食の心も南型で、オーブン付き加熱器の必要性は薄く、大きなシンクを欲します。北の国の台所は家族の生活

の場として、常に美しく心掛けますが、南では作業場の性格が強く、特に我々の台所の多くは雑然としています。目新しさ、四季の変化に即した食材や器を好み、多湿から、乾燥させたいのも原因の一つでしょう。

世界の台所の地域差や発達過程に触れることは、私達が本来の習慣を見失しなわずに未来の食空間のより良い発展に結びつくと思います。

たのです。子供に接する時、小鳥のさえずりを耳にする時、四季の花々に目をやる時等。

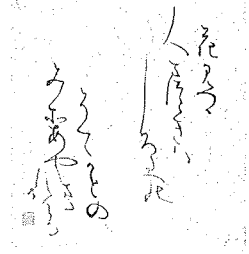
その頃教育テレビの書道の時間はとても大切な事として毎回欠かさず見ておりました。村上翠亭先生が講師をされていた折の事、画面に筆先が紙を切るかのようリズムに乗って力強く運筆されていく様を見た時、目の上の何かがポロリと落ちました。

「目の上の鱗が落ちる」とは古筆の奥に何かがあると感じていてもそれが何なのかどうしても解らない。そのうち真暗なトンネルに入ってしまった。なぜ見えないのか自問しているうちに、ふと、心を素直にしてみよう、物事を素直に見てみよう、と思っ

こういう事なのか、何と重い鱗を付けて物事を見ていたのかと頭を叩かれた思いでした。トンネルの遙か向こうに針の先程の光が見え、スーとトンネルを抜けた自分を感じていました。「素直であれ」二葉ヶ丘で目にし耳にしていた事がこれ程深い意味であったとは。うまく書こうとした時その線質は出せず、素直になれた時筆先は紙を切るかのような強い感覚を手に与える。しかし、リズムに乗れた気宇の大きな作品を創る事は難しく、書はとも私の手には負えないものに思えてくるのです。

そんな折、目を外に向けてみようと考え、この数年東京支部の総会に出席しています。詫摩武俊先生、NHKの名取将氏、小林和男氏、三井篤友先生のお話等、年に一度のこの機会は私の楽しみな時間となっております。

昨年総会の式次第を書いたことから、副支部長さんに「書と私」のテーマで原稿を依頼されました。もっともつと勉強されている同窓の諸姉妹がおられる中でと、ためらいがありました。今迄の書とのかかわりを書かせて頂きました。





### 流れていく時間

門平 梓 (高校31回)

画名 織田有紀子

近頃、自分の作品ファイルをめくりながらしみじみ思うことがよくあります。

長かったような短かったような、よくこままでやってきたなと……。諏訪を離れて十八年、故郷ですごした時と同じ時間を過ごしてしまいました。東京に近づくにしましたが輝ける未来に向かっていく様に思えた十九の春でした。それから日本画というもの



に関わり、今日まで糸を紡ぐように作品を作り続けてきました。私にとって作品とはその時の等身大の自分、歩いてきた道そのものなのです。ですからB4判のファイル3冊に今までの時間が詰まっているということになりました。

うか。

その時感じた事思った事、

生きる姿勢が花や山に形を変えて画面に収まっています。

そして、その根底には必ず諏訪に育った自分がありました。……。来年、そのファイルを持って故郷にもどることとなりました。

明日のことは分からない人生の不思議を感じておりますが、これからこのファイルに加わっていくだろう作品・人生に期待している自分でもあります。

### 歴代正副支部長会

一月三十日、先輩方等十八名のご出席を得て歴代正副支部長会が開かれました。夫々の時代の活動の様子など、エピソードを



交えてのお話、支部のあゆみを改めて知り、先輩方の支部への熱意と後輩への期待を感じました。

## 学年同窓会だより

―歴史・自然・伝統文化―

### 「南九州で同年会」

中林孝子 (高校5回)

平成八年五月二十一日・十三日の二泊三日・鹿児島で同年会を開催した。この企画は、入来院貞子さんが居を移された鹿児島の中世の面影を残す入来院を是非皆様を紹介したいと提案されたことによるもので、八十六歳の武居登志子先生と共に四十四名が参加した。第一日目、羽田空港

から全日空機で鹿児島へ。飛行機が初めてと信州訛りではしゃぐ人等、みんな修学旅行気分であった。南国鹿児島の空は明るい。満席の貸り切り大型バスで、まず天照大神の孫のニギノミコトが祭られている老杉に囲まれた朱色の華麗な社殿の霧島神宮を参拝した。次にピンクの可愛らしい花の「ミヤマキリシマ」が咲きはじめたえびの高原の自然を楽しみ、混浴の大庭園風呂の霧島ホテルで一日の疲れ

を癒した。第二日目、入来院を訪ねた。鎌倉時代の武家屋敷の玉石垣や茅葺き武家門がある農村を散策。入来院長・助役の歓迎を受け、当地の新聞にも掲載された。次にゴールドパーク串木野で藩政時代に金・銀が採掘されたクモの巣のような地底を見学して、司馬遼太郎の『故郷忘じがたく候』のモデルとなった十四代沈寿官の陶園を拝見した。運よく寿官氏と親しくお話をできた作品集に署名をいただき、おだやかな人柄に感激した。その日お宿は指宿海上ホテル、明るい日ざしとハイ

ビスカスの花の下で砂むし温泉を楽しみ、宴会は抽選会で盛りあがった。第三日目、薩摩半島最南端の長崎鼻から龍宮伝説で美しい海に浮かぶ開聞岳を眺めた。次に怪獣イッシーの潜むという池田湖から知覧の特攻平和会館を見学した。特攻隊の悲劇に涙し鎮魂を祈り平和を願った。島津七十七万石の城下町鹿児島市の磯庭園から桜島を眺め、西郷神社を参拝して、鹿児島空港から帰途についた。天気は恵まれ、全員無事で、歴史・自然・伝統文化を堪能した、素晴らしい旅の同年会であった。

### 物故者

物故者の訂正  
前会報に間違ってお名前が載りました。お詫び申し上げます。  
中重 喜代子様 (雨宮)

客員 竹村 静子様 (板東) H8

河野登世子様 (益井) H7

内海 久子様 (錦江) H7

上條 敏実様 H8

春日 道和様 H8

寺沢 新一様 H8

麻生ひさ糸様 H9

高女14 小林 ちよ様 (太田) H8

守田 ちよ様 (三村) H7

21 小沢 圭子様 (林) H9

22 片倉みよ子様 (矢崎) H7

24 岩波せい子様 (伊藤) H7

24 石田 正子様 (石田) H9

25 高木 福恵様 (矢島) H7

25 植松 愛子様 (丸茂) H8

30 飯山富美子様 (飯山) H8

31 上野美津子様 (武川) H7

31 神原すみ江様 (伊藤) H8

37 原 芙蓉様 久保田 H7

37 矢崎富美子様 (矢崎) H7

38 北沢 時代様 (小尾) H7

高校3 古谷野草子様 (貞野) H7

4 山田登志子様 (竹内) H8

9 伊東けい子様 (高田) H7

9 神林美恵子様 (飯山) H7

ご冥福をお祈りいたします。

## 油絵と共に

伊崎厚代 (高女40回)

私が油絵を始めたのは長女が小学校入学と同時にPTA絵画教室に入部してからです。当時二歳になる娘を連れ一緒にキャンバスを与えて遊ばせながらのおけいこでしたが何時の間にか三十年以上にもなり娘も今は二児の母です。私がここまで続けられましたのも家族の思いやりとやさしさと協力のお陰です。画歴が進むにつれ画廊めぐりやグループ展出品、スケッチ旅行等で家を留守にすることもあり部屋中溶油の臭いと描

## ナンに魅せられて

木倉晴江 (高校14回)

誰の人生にも転機というものがあつた。私の場合、三十年代後半に入ってからだつた。ふとした事から飲食店の経営に関わり、たまたま経営した店舗がカレー料理から本格的な印度料理へと向かつていた為それは私の人生には思いがけない転機となつた。今でこそ

きかけのキャンバス等で汚れた家族や主人に迷惑の掛通しをした。そんな暗中模索の頃素晴らしい師に巡り会い都美術館出品の白日会展に入選出来、又全国公募展で受賞し、画商さんによるデパートでの展覧会に「四季の風景」の表題で展示することが出来て世の中に出して戴きました。多くの方々に感謝です。四年前三十五年間過しましたかけがえもない主人も他界し今カルチャーセンターでの教室や週二回程の個人レッスンで都内の公園や日本の美しい自然を求めながら仕事が出来ます事を心から感謝し、一人でも多くの方々に喜んで頂ける温かい

数店舗の印度料理店を営んで二十人近い印度人コックを招聘しているが、当時には夢の又夢、経営という悪夢の中で只只忙しく働いて来ただけなのだ。何故と考えてみると、世間知らずの田舎者であつた私が、勉強にと上京して、恐る恐る入った印度人の経営するレストランで初めて食べた焼きだてのナンに魅せられたからだと思う。いつかナンを自分の店で焼いてみたいと切に思ったものだ。ナンは縦形

な明るい絵を描き続けていきたいと思ひます。

今重いうリュックパイ道具を背負い写生地を求めて歩きますのは、終戦二年目国民体育大会長野県代表で出場し全国優勝した「アルプスの鐘」を踊つた時の感動と厳しい練習で鍛えられた前向きで逞しい魂と、体力のお陰と又日々美しい湖と山々の姿の自然の中で育まれたお陰と心から有

## 活躍する 先輩・後輩

の楽焼きの炉で炭で焼く素朴なパンなのだが、印度から取り寄せるタンドルというその炉なくしては、どうにも思ふ様に焼けない。いつしか年経てこの十一月には私の六台目のタンドルに火を入れた。御神酒を捧げ、窯の神々に平穩と無事を心から願つた。そして、新しい窯で焼く最初のナン「ファーストナン」を食

難く感謝の毎日でございます。まだ未熟者ですので今後共ご指導をお願い申し上げます。

## ひかる君達と共に

山下 小夜 (高校6回)

平成元年に三十年間に及ぶ教員生活に終止符を打つた時、私は「自分のため、家族のため、社会のため」これから何をしなければならぬのかをよく解っていました。

我が家には知的障害を持つ息子がいます。当時彼は養護学校高等部に在籍していましたが、卒業後の進路については、どの親も非常に不安を抱えていましたが、私も目の前に迫りつつある事態に向かい合う事になりました。

障害児を持つていても、する至福に与つた。立つたがやとどつた持病を抱えたまま、こんな仕事が出来たのもひとえに幾つもの出会いが重なつた幸運のおかげなのだろうと思う。因みに今日の料理の基礎は母校の武居と志子先生只一人が師であつた。人生の中で出会う多くの人々に感謝して、その人達の為にも更に精進したいと思う。

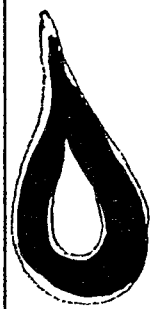
一人の人間として社会で働きたい気持ちが強く、様々な制約がありながらも教師を続けてきましたが、やめてみて、それまでの自分を振り返ると、何と不勉強で浅慮であつたかを痛切に感じました。

私は、まずPTA役員になつて学校や親達の中にとび込み、勉強会、施設見学、ボランティアと走りまわり、勤めていた頃より多忙になりました。

一方、地域では「手をつなぐ親の会」で広報を担当し、行政や地域の人々の理解協力を得られるよう働きかけ、自分達の手で無認可の小さな小さな作業所を二年前かけて作りました。

全くゼロの状態から一つのものを産み出すのは大変な事です。そして、それを育てていくのは更に難しい仕事です。でも、この八年間で着実に成長しつつあるのを見るにつけ、次の目標へ地道な努力を続けようという気がわきます。大江健三郎氏の御息、光君同様、我が息子も光を与えてくれるひかる君です。この子を通して多くのひかる君達と出会い、生きる素晴らしさ、やさしさを教えられています。

# 文苑



## 短歌

追憶

敦公の鳴真似旨しと褒められて吾子は臨終も母に聞かせし  
翼振りて低空旋回幾度か別れ惜しみし特攻兵士  
虫喰いも売らねば食えぬと林檎売る女は言ひぬ夕風の中

## 恩師の言葉

菊川 翠 (高女40回)

旧姓 北澤

ある朝、犬と散歩をする道  
すがら、咲きおくれた月見草  
が五、六輪、可憐に咲いてい  
るのが目にとまりました。

そんな花の香にさそわれる  
ように、ふと母校二葉へ通じ  
る坂道の情景を思い出したも  
のです。

私が入学したのは昭和十八  
年。一年生の時だったとおも  
いますが、山崎先生が最初の  
出征をなさった時の最後の授  
業で、志賀直哉の詩を読んで

## 俳句

小野 初江 (高1回)

巴旦杏食むや信濃は起ちあがる  
遠花火あした生まれ馳け抜けて  
靈鷲山行きつくまでの春の蝶

滝沢 八重子 (高女17回)

下さいました。そしてそのお  
り、諏訪弁を混ぜた私のつた  
ない作文をほめて下さり、「あ  
とはたくさん本を読むことだ  
ね」とおっしゃいました。

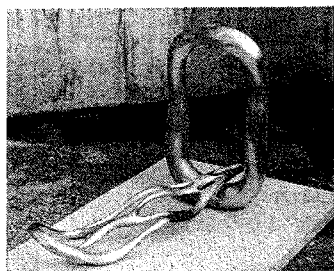
この一言をなぜか私はいま  
も鮮明に記憶しております。

信濃路に雪の便りを聞く朝  
上総の冬は日差し香りて

下さいました。そしてそのお  
り、諏訪弁を混ぜた私のつた  
ない作文をほめて下さり、「あ  
とはたくさん本を読むことだ  
ね」とおっしゃいました。

## 展覧会場にて

井上玲子 (高校3回)



## 詩

### 雲雀

高槻 文子 (高校6回)

昔 あなたが少年だった頃のように  
昔 わたしが少女だった頃のように  
唇を尖らせて シャベロウ  
思いついたことを  
次々に 急いでしゃべろう  
沈黙がこわばらないうちに

春の川べりに腰をおろして  
まっすぐに伸びた青い草を拵  
りながら  
草の痛みを知らうともしない  
にぶく輝きながら川は流れて  
時の太いうねりに呑み込まれ

絵や彫刻の展覧会を見に行  
くと、作品の前に立って、そ  
の題名を読んでから見る人、  
まず作品をゆっくり眺めてか  
ら題名に目をやる人、題名に  
は一切関係なく見て過ぎる人  
など様々な鑑賞スタイルがあ  
ります。

本来は作品そのものと静か  
に対峙してその声をきけばよ  
いのですが、お互いの感性が  
合うのは仲々難しいので、作  
者としては題名で補いたくな

雲雀は さつきから啼いて  
啼いて啼いて  
高く高く  
空を目がけて死ににいったよ

指笛を吹こう  
鋭く!

春の川べりに腰をおろしたまま  
少年も少女も いちどきに老いる  
川面の光に目を細め  
穏やかに二人微笑むだろう  
そして 味わうだろう

沈黙の量り知れない豊かさを  
わずかに日差が驕り  
草を撫でて風が渡る  
空には雲の葬列  
雲雀の骸を 運んでゆく

(第5回長野文学賞受賞)

## 編集後記

☆化学の小松先生からの寄稿

文に、第五福龍丸の死の灰  
を徹夜で分析された日の思  
い出の記事が添えられてあ  
った。情熱的で魅力的な恩  
師の横顔に触れて一同感激。  
「いいえ、そういう方よ」  
とはもと物化部部長の松村  
支部長の言。

☆宮沢副支部長、幅広い温か  
な人間関係から、音楽の保  
坂先生はじめ先輩、後輩の  
方々に原稿依頼を試み  
OK。「私には守護神があ  
っているみたい」と真顔で。

☆一月二十四日の幹事会の折  
「物故者の欄は必要です  
か」と問い、考えていただ  
いた。会員の大切な情報だ  
とのお考えが圧倒的多数。

山田副支部長「やるなら、  
正確にやらなくては」とス  
ポーツマンらしくきりりと。

☆編集を終えて、改めて二葉  
高同窓生のすばらしさと温  
かさを実感、感謝。(青木)

へ編集委員

- 松村田鶴(高5)
- 池田康子(高9)
- 宮沢澄子(高5)
- 瀬戸洋子(高14)
- 青木朋江(高6)
- 寺岡本子(高14)
- 山田秀子(高6)
- 平尾香代子(高14)
- 渡辺さとみ(高9)

## 東京支部活動記録

### 平成6年度

役員 支部長 井上玲子 副支部長 林芳子、山田淳子  
 会計 小平ミキ子、伊藤順子 記録 池田悠子、三沢章子、進藤国子  
 本部理事会出席 平成6年3/27 6/24 9/16 11/22  
 平成7年2/24 4/28 (林次期支部長共出席)  
 本部総会出席 平成7年5/20 (井上、小俣、林、山田)  
 長野県高校同窓連総会出席 平成6年7月 (武井、井上)  
 長野県高校同窓連新年会出席 平成7年2月 (宮崎、武井、井上)  
 南信地区同窓連親睦旅行参加 平成6年10月 (宮崎、武井、井上、小俣、林) 同忘年会、新年会出席 (宮崎、武井、井上、小俣、林)

### 活動のあらまし

| 年月日     | 事項               | 備考                                                                        |
|---------|------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 6. 6/20 | 新旧役員引継           | 支部長挨拶、新旧役員自己紹介、各係毎の引き継ぎ終了後新役員打合せ                                          |
| 8/29    | 第1回役員会           | 5年度総会の報告と反省、高女23回会員の幹事免除について、本年度事業計画、役員 幹事の名簿作成                           |
| 9/26    | 第2回役員会           | 東京支部だより発行に関する内容協議                                                         |
| 10/24   | 第1回幹事会<br>終了後役員会 | 支部長挨拶、役員 幹事自己紹介、役員 幹事名簿作成<br>本部理事会報告、若い世代の会員加入促進について、東京支部だより発行承認と原稿依頼について |
| 11/28   | 第3回役員会           | 長野県高校同窓連 南信同窓連出席会費について、維持費納入 名簿訂正について                                     |
| 7. 1/19 | 歴代支部長会           | 本部理事会 長野県同窓連報告、歴代支部長会について、総会の準備、支部だよりの進行状況                                |
| 1/23    | 第2回幹事会           | 歴代支部長 今年度役員9名出席 (新宿あじさい宿)                                                 |
| 2/13    | 臨時役員会            | 総会について (講演者 アトラクションの承認) 支部だより原稿依頼、終了後役員会                                  |
| 3/23    | 臨時役員会            | 東京支部だより編集会議、原稿読みその他                                                       |
| 4/3     | 第4回役員会           | 第3回幹事会議の準備、支部だよりゲラ刷り上がり遅れの為 3月23日臨時役員会にて校正                                |
| 4/10    | 第3回幹事会           | 第3回幹事会議の検討、総会案内 東京支部だよりの配布準備                                              |
| 5/10    | 第5回役員会           | 新年度役員の承認、総会日の役割分担、名簿訂正について、終了後役員会                                         |
| 5/22    | 第6回役員会           | 会計監査 平成5年度会計2名、総会準備、午後東洋軒と打合せ                                             |
| 5/23    | 総会               | 総会の最終チェック (席割り 案内表 ピアノ音律調整等)<br>出席者 244名                                  |

### 平成7年度

役員 支部長 林 芳子 副支部長 山田淳子、松村田鶴、宮沢澄子  
 会計 奥村千江、小林郁子 記録 阿部真弓、大長美智子、金子泰子  
 本部理事会出席 平成7年4/21 6/23 9/22 11/24 平成8年度2/23 4/19 (井上 林 松村)  
 長野県高校同窓連出席 平成7年7/22総会 (山田、宮沢) 8年2/3新年会 (山田、松村) 5/28理事会 (林、松村)  
 南信高校同窓連出席 平成7年8/17総会 (山田、松村) 9/30会津旅行 (井上、小俣、山田、松村、宮沢)  
 12/7忘年会 (林、井上) 8年1/25新年会 (林、山田)  
 第62回本部定期総会出席 平成8年5/18 (井上、小俣、林、山田、松村)

### 活動のあらまし

| 年月日     | 事項     | 備考                                           |
|---------|--------|----------------------------------------------|
| 7. 6/26 | 新旧役員引継 | 支部長挨拶、各役員の報告 意見、新年度事業計画                      |
| 8/28    | 第1回役員会 | 本部理事会及び県同窓連総会報告、会計年度変更について、6年度会計報告と反省        |
| 10/23   | 第1回幹事会 | 支部長挨拶、役員 幹事自己紹介、6年度総会反省と会計報告、7年度総会の相談 年間活動予定 |
| 12/11   | 第2回役員会 | 歴代正副支部長会について、会計年度変更の原案作成 総会の講師 アトラクション決定     |
| 8. 1/13 | 歴代支部長会 | 歴代支部長 本年度役員17名出席 (新宿車屋)                      |
| 1/22    | 第2回幹事会 | 歴代支部長会報告、会計年度変更と規約改正案承認、維持費納入願い配布            |
| 3/11    | 第3回役員会 | 総会招待者の検討、総会案内状の作成、次年度役員決定、第3回幹事会について         |
| 4/15    | 第3回幹事会 | 7年度総会について 会次第 役割分担 案内状等の手配、次年度役員紹介、1年間の反省と感想 |
| 4/22    | 第4回役員会 | 総会について東洋軒と打合せ、会計監査と会計引き継ぎ                    |
| 5/13    | 第5回役員会 | 総会次第 役割分担確認 準備                               |
| 5/14    | 総会     | 出席者 260名                                     |